

東京文化財研究所 75 年史編纂事業 (情 04-06-1/2)

平成 19 年度の刊行をめざして、東京文化財研究所七十五年史に関わる資料収集を行い、沿革・調査研究篇については、各部・センターの担当者を中心として資料を収集し、原稿を作成した。事業・資料篇については、収集した資料をデジタルデータ化し、講座・研修・国際シンポジウム一覧等の事業関連資料とともに、事業に関連して収集された文献・画像等の一覧、旧職員一覧及び物故職員略歴などを編集、原稿化した。また、その一部を研究等に資するデジタル・コンテンツとして公開に向けて編集し、ホームページ上での公開に向けて加工を進めた。

所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業(ニュースレター・概要・年報)(* 情 05)

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、所蔵目録・バーコード化・広報企画事業(ニュースレター・概要・年報)(情 05)の一環として実施した。詳細は、59 頁を参照。

平成 17 年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」(美 04-06-1/5)

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。美術部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が 1936 (昭和 11) 年から始めた「日本美術年鑑」の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。2002 (平成 14) 年において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成 17 年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成 17 年版は、下記のような構成をとり、B5 版 361 ページとなった。なお、平成 19 年度より独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館の統合に伴い、本年鑑を編集担当してきた美術部は当研究所企画情報部に整理統合することとなり、そのため同部による編集は今年度をもって最後とする。出版に際し、東京美術商協同組合より助成を受けた。



2004 (平成 16) 年美術界年史

美術展覧会 (企画展、作家展、団体展)

美術文献目録

定期刊行物所載文献

美術展覧会図録所載文献 (企画展、作家展)

物故者

『美術研究』

1932 (昭和 7) 年 1 月、東京文化財研究所の前身である美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第 1 号を刊行。以来、75 年にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関連する西洋美術について研究論文・図版解説・書評、展覧会評、研究資料、研究ノートを掲載し続けている。本年度は 389 号、390 号、391 号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合より助成を受けた。



『美術研究』389号(18年度第1冊/2006年6月刊行)

- (論文) 謝明良(矢島律子訳)「明代晩期の宋代官窯青磁鑑賞と『碎器』の流行」
(論文) 後小路雅弘「帝国大学のパブリックアート 青山熊治『九州大学工学部壁画』」
(書評) 吉澤勝弘『白隠 禅画の世界』(浅井京子)
(書評) 生きている画家、あるいは距離の逆説 田中淳『画家がいる「場所」近代日本美術の基層から』
について(北澤憲昭)

(研究資料) 津田徹英、皿井舞「兵庫・法恩寺 木造菩薩坐像」

(研究資料) 臺信祐爾「公刊『黒田清輝日記』(下)」

(解題) 公刊「黒田手紙控え」及び『黒田清輝日記』(田中淳)

『美術研究』390号(18年度第2冊/2006年12月刊行)

(論文) 田中淳「後期印象派・考 一九一二年前後を中心に(下)」

(図版解説) 塩谷純「菊池容斎《観音経絵巻》」

(図版解説) 鶴田武良「黄輔周の舌画 民国期絵画資料」

(展覧会評) 皿井舞「古密教 日本密教の胎動」

(展覧会評) 田中淳「アジアのキュビズム 境界なき対話」

(展覧会評) 金恵信「ソウルの古宮で見るアジアのキュビズム」

(書評) 日本の中国彫刻研究の百年 石松日奈子『北魏仏教造像史の研究』を読む(肥田路美)

(書評) 荒屋舗透著『グレー=シュル=ロワンに架かる橋 黒田清輝・浅井忠とフランス芸術家村』

(山梨絵美子)

『美術研究』391号(18年度第3冊/2007年3月刊行)

(論文) 陳芳妹(金立言訳)「追三代於鼎彝之間 宋代の『考古』から『玩古』への展開について」

(論文) 朴銀卿(金正善訳)「大徳寺所蔵《水月観音図》の供養人物群像に関する新解釈」

(論文) 相澤正彦「『破墨山水図』と宗淵」

(展覧会評) 青木茂「森鷗外と美術」

(研究資料) 津田徹英「善光寺式 阿弥陀如来像ならびに観音菩薩像」

『無形文化遺産研究報告』(無04-06-1/5:無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施)

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『無形文化遺産研究報告』第1号

宮田繁幸「無形文化遺産保護における国際的枠組み形成」

大島暁雄「続・無形の文化財の保護をめぐって 無形の文化財の一体的な把握
と記録選択制度の検証」

俵木悟「無形民俗文化財映像記録の有効な保存・活用のための提言
情報の共有と開かれた利用の実現に向けて」

飯島満「吉田兵次『とやぶれ』」

森下愛子「陶芸技術に関する展覧会から

重要無形文化財指定の『わざ』と『ひと』がどのように展覧されてきたか」

深津(福岡)裕子「染織文化財の製作技法 船載黄色毛織物の素材と技法の分

